



羽田 正 (HANEDA Masashi)

東京大学理事・副学長

京都大学文学部史学科卒業、同大学院文学研究科東洋史学（西南アジア史学）修了、京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、パリ第 3 大学博士課程修了。Doctorat de troisième cycle (Etudes iraniennes)取得。

日本学術振興会奨励研究員、日本学術振興会特別研究員、京都橘女子大学文学部助教授、東京大学東洋文化研究所助教授、ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員を経て、1997 年東京大学東洋文化研究所教授。2000 年フランス CNRS 客員研究員、2004 年から 2006 年まで東京大学東洋文化研究所副所長を経て、2009 年 4 月から 2012 年 3 月まで同所長。2012 年 4 月から 2015 年 3 月まで東京大学副学長。2016 年 4 月から現職。

世界史が専門で、主な研究活動は、前近代 - 近代における環インド洋・環シナ海世界の港町における異文化交流の諸相研究、世界の世俗化の歴史学的研究、グローバルヒストリーの方法論研究などで、現在は新しい世界史の具体的な叙述方法の開発に取り組んでいる。

学外では、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会臨時委員、中央教育審議会専門委員。安倍首相による戦後 70 年談話作成のための材料を提供する 21 世紀構想懇談会の委員を務めた。学会としては、日本中東学会（評議員）、史学会、東洋史研究会、西南アジア研究会、World History Association, Association pour l'avancement des études iraniennes に所属し、活動を続ける。

主な単著として、『新しい世界史へー地球市民のための構想』（岩波新書）、『東インド会社とアジアの海』（『興亡の世界史』15 巻、講談社）、『イスラーム世界の創造』（東京大学出版会）『モスクが語るイスラム史——建築と政治権力』（中公新書）、『勲爵士シャルダンの生涯 十七世紀のヨーロッパとイスラーム世界』（中央公論新社）など。共著・編著に『グローバルヒストリーと東アジア』（東京大学出版会）、『輪切りで見える！パノラマ世界史』（全 5 巻、大月書店）、『海から見た歴史』（東京大学出版会）、『世界の歴史（15）成熟のイスラーム社会』（中央公論社）、『ユーラシアにおける文化の交流と転変』（東京大学東洋文化研究所）、『港町に生きる』（青木書店）、『イスラーム都市研究』（東京大学出版会）、『イスラーム辞典』（岩波書店）など多数。

また、毎日出版文化賞（2002）、アジア・太平洋賞特別賞（2006）、ファーラービー国際賞（2010）などの受賞歴を持つ。